

我々の住む寺田縄には自然がいっぱい残されています。鈴川、金目川の流域は「野鳥の宝庫」と云われるくらい、多くの種類の野鳥たちが生息し、季節に応じて渡ってくる野鳥も見かけます。

今回は、中々目に留まりにくい川辺の小鳥たちを紹介いたします。



コチドリ (小千鳥)

目の周りの黄色いアイリングと首にある襟巻のような黒いリングを付けた可愛い千鳥の仲間です。

スズメより少し大きな体で、日本のチドリの仲間では一番小さな形をしています。

夏になると鈴川の川辺に時たまあられ、酔っぱらいのように「千鳥足」でふらつきながら歩く、元祖・千鳥足の鳥です。

ケリ (鳧)

(野鳥その1)で紹介しましたタゲリの仲間で、ハトのような顔立ちと黄色く長い脚が特徴です。腹部は白い羽毛に覆われ、羽先と胸帯が黒く、飛んでいる姿は白と黒のコントラストがとても美しい鳥です。

グループで行動していますが、中々お目にかかれません。



タシギ (田嶋)

冬鳥です。ヒヨドリくらいの大きさで嘴がとても長く、川辺の草はらに^{くちばし}嘴を突き刺しミミズ等を食べています。

単独でいることが多く、枯草の中において、動きも少なく、見つけることの難しい鳥です。

クイナ（水鶏）

ヒヨドリ位の大きさと嘴が赤く、水辺で小魚やカエル等を食べています。

警戒心が強く中々姿を見せず、すぐに草むらに隠れてしまいます。見つけるには、なんととっても運と根気が必要です。

沖縄固有の飛べないヤンバルクイナ（山原水鶏）が話題になりましたが、同じクイナ科です。



バン（鶺鴒）

クイナ科に属し、ハト位の大きさです。黒褐色の体に赤い嘴と赤い板のような額（額板）が特徴です。

水際に居て小動物や草の種子を食べています。

泣き声は笑い声と似て、「バンの笑い声」と云われ、鈴川や渋田川の草陰でも「クルル」と鳴くことができます。



オオバン（大鶺鴒）

クイナ科に属し、カラス位の大きさです。全身黒色で嘴は白色、白い板のような額（額板）があります。

たまに陸上を歩くこともありますが、水上での生活が多く、カモたちと仲良く泳いでいます。

鈴川や渋田川で比較的多く見ることができます。